

# 岩戸 町会だより

令和6年第3号  
発行  
岩戸町会  
編集  
岩戸町会広報

## 令和6年度 第29回地域懇談会

令和7年2月16日（日）岩戸

町会公民館第一会議室にて、令和6年度・第29回地域懇談会が行われました。

午前の部（10:00～11:45）

班長、本部役員含む）

（嶋本会長の挨拶）

岩戸地域には南北合わせて9600世帯が暮らします。うち町会加入者は、約3000世帯です。地区の加入率も世帯数に対し3～4割程度が実状です。

地域コミュニティを現代にあつ

た形に作らなければという意見をあります。今後どのような形でコミュニティを築き上げればよいのか、本部でも議論をして取組んでいます。本日は、理事、班長の皆様には日頃の班員の皆さんとのコミュニケーション

などについて、ご意見下さい。町会が抱える諸課題・問題をどういう形で前へ進めればよいのかご指摘いただき考える機会になればと思っています。

### 自由討論

（意見1・班長）加入者を増やしたいと努力し転入者には入会していただいた。しかし以前の入会者に再加入を呼びかけたが引き戻すことは出来なかつた。



町会がLINEなどを通じて戸地域の情報を発信するのは有意義。犯罪が多発して、住民なら身近かに起きた事を知りたい気持ちは当然。身近な情報がえられ暮らしの安心につながるなら町会に加入する大きな利点、勧誘の強みになる。

（意見2・班長）令和元年、喜多見駅の狛江市側に改札口が出来ればと協議会を立ち上げたのが元町会長の進藤さん。一昨年9月に当協議会に東京都から助成金が出る事になり活動を推し進めている。大きな民意が無いと行政を動かせないので、3000世帯が加入する町会の力添えが欲しい。

（意見3・班長）手間がかかることはIT化にすれば良い、なるべく手間を少なくしたほうが役員も助かるのでは。今回、出欠を取るのにQRコードを用いたことは非常に便利。すぐ対応した。

（意見4・班長）会員も、町会に加入している魅力を理解すれば問題意識を持ち対応出来るのでは。喜多見駅に新たな改札口を設置したいという声が徐々

に大きな声となり組織になり東京都を動かせた話はいい事だと思ふ。防犯カメラは、もつとあつた方がいいのでは。町会だよりを見るが、文字が羅列しているだけでもつとシンプルで分かりやすくしたほうが良い。

（意見5・班長）転入者にはメラが200基以上。町会はじめ設置機関は多数。市は各々の地域の事情と判断で設置する補助をしている。現在、岩戸町会が設置しているのは9基。令和6年度は南北に1基ずつ増設。7年度も増設を考えている。

（意見6・班長）老人会では楽しい活動をしているので、是非参加してほしい。イベントに参加すれば皆さんのが顔を覚えられる。町会も定期的に開催する事業を考えては。

（意見7・班長）以前、周辺

## 岩戸町会だより

は持ち家が大半だったが、今は借りや企業の借り上げ宿舎にかわり、加入されない。

(意見8・班長) 地域とつながりたいという思いで加入した。コロナで回覧板も減り、会費の集金だけの交流状態。もつと近所づくりしたいと感じています。ハロウィンやスポーツ大会などに子供と一緒に参加でき横のつながりが増やせるイベントがあればいいと思う。

(意見9・理事) 近所であつた事件や火災などの事由について知りたい声が多いが、町会防犯部として警察に情報を伺つても教えてくれなかつた。

(意見10・班長) 一般市民が警察に問い合わせても回答はしない。以前報道関係に勤めていた際には詳細まで知れた。放送や記事にする場合、プライバシーの問題で詳細は出さない。町会として警察と関係が出来れば情報が得れる可能性はある。ただし、ある程度公開については、ルールが必要。この取り組みは、町会と住民が一体化する新しいステップと思う。

午後の部 (13:00 ~ 14:45)

南地区・出席者24人 (理事、班長、

本部役員含む)  
(自由討論)

(意見1・理事) 班長から弔慰金の申出があり本部に申請した。本部から弔慰金を預かり、班長へ当事者へと渡したが、受渡しの受領書がない。事故がないとも限らなく心配。出来れば、班長が申請し本部から直接当該宅に渡した方がいいと感じた。

(嶋本会長) 本来なら受領書があるべきだが、事故が無いまま

継続してきた。今後LINEを導入、運用の段階で、直接申請が出来ないか改善点として考えたい。

(意見2・理事) 町会の存在



意義を転入者の方に説明する為にも理事・班長になつた方には、役割を徹底して説明する必要がある。

(意見3・班長) 町会の存在意義が皆さんに沁み伝わってない感じがする。そして町会が役立つているのかどうか説明が出来ていな

いのではと感じる。班長引継ぎ時に、もっと班長の役割や目的などを次の方に理解できるように説明しないと、やらされ感でおわり、残念に思う方もいるのでは。

(意見4・班長) 町内の情報を市のLINEに任せたらどうなのか。市のLINEを見る、町会のLINEを見るのではなく、市に付加すればよいと思う。

(嶋本会長) 市のLINEは広域の話。岩戸の身近な情報は出でこない。市の情報とは、役割が違うと思う。

(意見5・班長) 班長を引き継いだが、何をすればよいか分からなかつた。理事に聞いて回覧をする仕組みが班ごとに違い、統一されていないことを知つた。面識の無い状態でただ回覧するだけで町会の存在価値をあまり感じない。慶弔金がある事も知らないで班長をやつしていました。引継ぎ時に、

「これだけは確認してという「引きリスト」があればいいと思う。」

(意見6・理事) 今回初めて理事をうけました。この後の理事の引継ぎは、地域によってどのように決めていますか。

(雨宮副会長) 5年以上理事をやつて。前任者はもつと長かつた。次に引き継ぎたいが年配者が多く断られる。隣の班に移つていくのはいい方法だと思う。

(小野総務部長) 理事・班長さんは地区役員です。地区役員の任期は原則として1年です。なお、留任は妨げない事が会則です。出来るだけ原則に従つて運用して頂きたいのが本部の考えです。理事などは1年間やつてみても班のことを把握しきれないのが実情ではないでしょうか。

以上

### 【町会の課題】

- 理事・班長のなり手不足の問題
- 集金、回覧板の問題  
(負担軽減化)
- 町会未加入問題
- 高齢者の退会問題  
(1人暮らし、空き家)
- I-T化、D-X化の問題

- 
  - 防犯、防災、交通安全、消防など地域の安心安全の問題
  - マンション住民とのつながりの問題
  - イベント（特に子供向け）の充実化の問題
  - （そもそも）町会の存在意義についての問題
  - 東京都まちのつながり応援事業
  - 「町会・自治会まちのつながりフェスタ」

「まちのつながり応援事業」に応募し、地域の課題解決、運営基盤の強化を都から派遣された4人のプロボノワーカー（社会貢献活動の一環として、自分の専門知識やスキルを活かしてボランティアを行う人）と共に考え、数回のディスカッションを重ねました。そしてそれをまとめ、今後の活動に役立てる取り組みを昨年から、今年の2月まで行いました。

その活動の発表会が、3月15日（土）新宿NSビルで行われました。今年度、この事業に参加された町会・自治会の役員の方々、これら、この事業に参加したい方々など、会場から溢れるほどの参加者でにぎわっていました。

## 「遺言相続セミナー」

3月20日(祝・木)町会・第二

会議室で行われました。15名程の地域の皆様が参加して、畠結里弁護士の講義に耳を傾けていました。相談や遺言の基礎知識について、分かり易い講義がされ、参加者からは沢山の質問がされていました。誰もが直面する関心の高い分野で

岩戸写メラリー  
2025

3月23日（日曜）東京都心で25度に到達する、今年初の夏日の中環境文化部主催の岩戸写メラリーが開催されました。

南北と大きな町内を会員の皆様に、もっと知つていただきたく、



- |     |              |
|-----|--------------|
| 問 1 | ・ゴリラがいるメガネ屋  |
| 問 2 | ・岩戸にある沖縄     |
| 問 3 | ・岩戸に隣接する駅    |
| 問 4 | ・秋祭りがある神社    |
| 問 5 | ・海の動物の名前の公園  |
| 問 6 | ・岩戸にある川      |
| 問 7 | ・岩戸から見える小学校  |
| 問 8 | ・岩戸で好きな場所の写真 |



す。個々で状況や興味のあるポイントが違うので、個別の相談会なども検討できればと思います。参加者には、「ライフプランノート」を記念にお渡しました。

問題形式で岩戸町内の名称を廻りながら、写真撮影するという企画です。参加者は、配布された問題用紙をもつて、ポカポカした陽気の町内に出かけていきました。撮影した写真を確認し、参加賞を渡して、写メラリー2025を終えました。

## 岩戸町会だより



# 第一回岩戸町会

## 防災フォーラム

令和7年3月1日（土）14時～15時50分岩戸地域センターFの会議室で岩戸防災フォーラムが開催されました。町会会員や一般の方を含め31名が参加されました。講師は、狛江市安心安全課防災士・上田俊氏。第三小学校避難所協議会・防災士・谷山和男氏。第三小学校避難所協議会副会長・防災士・篠浩司氏に講演いただきました。

上田氏は狛江市防災ガイドを使い資料内容の説明と、風水害に対して参加者で東京マイ・タイムラ



族であらたにマイタイムラインを作ることをすすめいました。家族で話し合うことで、一人一人の適切な避難行動を事前に決めておき、共有することで、家族との行き違いを避けられます。

谷山氏は、大規模地震を想定した震災時に自身の行動の考え方、防災グッズの紹介（持出し用袋の中身、簡易トイレ、充電器等）自助、近助、共助、公助等について説明されました。日頃の準備と購入したままではなく、利用できるものは試す。また、ご近所同士の共助が災害時に多くの人を助けるチカラになつたという報告はたくさんあります。日頃から、地域とのコミュニケーションを育み、災害を乗り切ることが大切です。



篠氏は風水害や富士山噴火、大規模地震が発生した際の避難所の説明がありました。狛江市での避難所収容人数は風水害時約650人、地震災害時8000人程であることから考えても、耐震対策、備蓄の充実を図り自宅に留まることのできる準備が必要です。震災直後は、すべての人が被災者で、行政の職員もまた同じです。そのうえで、自分や家族をどのように守るのか、日頃から考えましょう。

岩戸町会では、会員世帯にお子様が誕生した際「出産祝金」、会員世帯の方が亡くなつた際「弔慰金」を支給しています。

【会則第19条】弔慰金は、会員又は会員の同一世帯者がお亡くなりになられた際に、出産祝い金は、会員又は会員の同一世帯者が出産された場合に支給をしています。とともに、班長か理事を通じて、事由（死亡・出産）発生から6ヶ月以内に指定の申請用紙で本部に届くように、お願いします。

今後起こり得る大規模災害に備え、参加者は講師の話しを注意深く聞いていました。その内容を3人の講師から丁寧に説明を受け、日頃からの不安が少しでも和らいだのではないかでしょうか。最後に町会員の皆様日頃から大規模災害に対策していると思いますが、もう一度避難所、避難場所、備蓄品等を再確認くださいのメッセージでセミナーを終えました。

町会FACEBOOK開設



フェースブックQRコード

『毎週日曜日 13～00～16～00が町会開所日です』